

第23回 鈴鹿病態薬学研究会

講師：小亀 浩市 先生（国立循環器病研究センター・分子病態部部長）

日時：令和 7年 3月 3日(月) 17時より

会場：鈴鹿医療科学大学 白子キャンパス 1号館 1606室

ZOOMによるライブ配信（ハイブリッド開催）

演題：血液疾患TTP、VWD、VTEの分子病態と検査

本講演では血液疾患のうち、血小板凝集因子のフォン ヴィレブランド因子(vWF)が関与する血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)やフォン ヴィレブランド病(VWD)について、その病態と遺伝子異常を含む原因について、最新の知見を含めてわかりやすく解説していただきます。また、近年増加傾向にあり、リスク因子の評価と予防策が求められている静脈血栓塞栓症(VTE)についてもご紹介していただきます。早期診断と適切な治療が重要なこれらの血液疾患の分子病態について理解を深める機会になれば幸いです。

主催：鈴鹿病態薬学研究会

共催：株式会社 メディカルー光

後援：一般社団法人 三重県薬剤師会



学外から参加ご希望の方は、下記のURLにてお申し込みください。

https://docs.google.com/forms/d/1d4wttXU7SI_8m_YCbgEcaPK2fpdNhdliXwfFoqolV8U/edit

第23回 鈴鹿病態薬学研究会

日時：2025年3月3日(月) 17:00より

会場：鈴鹿医療科学大学（白子キャンパス）1号館 1606教室

ZOOMによるライブ配信併用（ハイブリッド開催）

講師：小亀浩市 先生（国立循環器病研究センター・分子病態部部長）

演題：血液疾患 TTP、VWD、VTE の分子病態と検査

講演概要

血液は流動性を保ちながら血管内を巡り、必要に応じて瞬時に固まり出血を防ぐという、相反する機能を高度に制御しています。この血流維持と止血のバランスを保つ複雑なプロセスには多くの分子機構が関与しており、その維持と破綻の機序を解明することは、血液疾患の診断や治療の向上において不可欠です。本講演では、血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)、von Willebrand 病(VWD)、静脈血栓塞栓症(VTE)という3つの血液凝固異常症を例に挙げ、それらに関わる分子基盤と診断技術を紹介します。TTP は、血小板凝集に必要なタンパク質 von Willebrand 因子(VWF)を切断する酵素 ADAMTS13 の活性低下によって発症します。私たちが開発した ADAMTS13 活性測定法は、TTP の基礎研究や臨床診断において極めて重要なツールとなり、現在では世界中で使用されています。VWD は、VWF 遺伝子異常によって引き起こされる遺伝性疾患であり、これまで見逃されてきた遺伝子異常をも検出可能な新しい解析法を開発中です。この技術は、VWF 遺伝子の網羅的な解析を通じて、より正確な診断を可能にすると期待しています。VTE は、血液凝固制御因子群の機能異常が主な原因となる血栓症であり、ここではプロテインSに注目して紹介します。私達が開発した新しいプロテインS活性測定法は、その補酵素作用を直接評価できる点で従来法と一線を画しており、実用化に向けて企業との共同研究を進めています。本講演では、これら3つの解析技術を取り上げ、それぞれの病態の背景と診断技術の意義を解説します。これを通じて、血液凝固の基礎的理解を深めていただくとだけでなく、血栓止血分野に対する興味や新たな研究の可能性を感じていただけたら幸いです。

主催：鈴鹿病態薬学研究会(代表 鈴木 宏治)

共催：株式会社 メディカルー光

後援：一般社団法人 三重県薬剤師会

事務局(問い合わせ先)：鈴鹿医療科学大学薬学部・中山 浩伸

TEL：059-340-0606

e-mail：nakayamh@suzuka-u.ac.jp



学外から参加ご希望の方は、下記の URL からお申し込みください。

https://docs.google.com/forms/d/1d4wttXU7Sl_8m_YCbGEcaPK2fpdNhdLiXwfFoqolV8U/edit